

# インドのサイクロン被害

## 「農村、壊滅的な状況」

AMDA  
医師ら報告

十月末、サイクロンによる被害を受けたインド東部で、緊急医療支援を行っていたアジア医師連絡協議会（AMDA、本部・岡山市）の医師、調整員三人が二十日、帰国し、「被害は悲惨。農村は壊滅している」と現状報告した。

同サイクロンは十月十八、二十九日の二度にわたリ、インド東部を襲い、オリッサ州を中心に二万五千人以上が死亡したとの報道がされている。

同チームは、二階堂修医師(33)、西村肇(40)、高松知文(27)両調整員の三人

で、十日に同国に入国し、インド、ネパール両支部の医師四人と合流。十九日までに同州を中心に約千二百人に診療を行った。コレラやマリアアの流行はなかったが、家屋が全半壊し、避難する場所もないため、風邪が患者の半数以上を占めており、冬を迎えて、体力の低下が心配されている。

高松調整員は「農村は海からの高潮を受けて、作物が出来ない状態。家屋の再建や毛布の配布など、住居環境を整える必要がある。長期的な支援が必要となるだろう」と話していた。